

私の「滋賀一番」三井寺 福家俊彦

●世界唯一、現存する唐王朝のパスポート

・・・「越州都督府過所」「尚書省司門過所」（2通）

名称 越州都督府過所 ・ 尚書省司門過所 2通

指定 国宝

時代等 唐時代（大中九年 855） 紙本墨書

所蔵者 三井寺（園城寺） 大津市園城寺町 246

海外旅行といえば、いまも必要なのがパスポート。あまり知られていませんが、三井寺には、9世紀に唐王朝の役所が発行した「過所」と呼ばれる旅行証明書（パスポート）が2通伝えられています。三井寺の開祖・智証大師円珍（814～891年）という高僧が、仏法を求めて唐に留学（入唐求法）したときに携行したもので、「過所」の実物は、この2通しか現存せず、世界的に貴重な史料となっています。

1通目の「越州都督府過所」は、大中9年（855）3月、円珍が越州（紹興）の開元寺から唐の都・長安に向かうときに越州都督府が発給したもの。

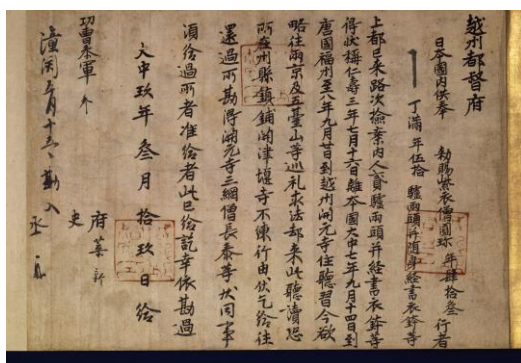
2通目の「尚書省司門過所」は、同年11月に長安から天台山（浙江省）に戻るときのもので、中央官庁である尚書省が発給したもの。

いずれも交付した役所名、出願者や従者の身分、姓名、年齢、携行品、旅行の目的や理由などが詳細に記されており、この過所を所持した一行が無事に通行できるよう発給者の署名と官印が捺されています。

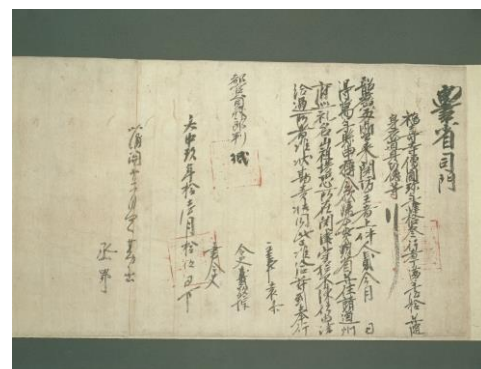
この過所を携えて円珍一行は、無事に長安の都に到着し、かつて弘法大師空海も滞在した青龍寺の法全阿闍梨から密教を修学した後、洛陽を経て江南の天台山に戻ることができました。過所の末尾にも、通過した関所の記録が残されており、円珍が5月15日に潼関を通過して長安に向かい、帰路では12月4日に長安を守る名高い関所・蒲関を通過した記録が残されており、円珍の旅程を具体的に知ることができる史料としても貴重です。



写真：「智証大師円珍像（重文）」



写真：「越州都督府過所」



写真：「尚書省司門過所」